

占いの信憑性



札幌市医師会
札幌中央病院

いち はら こう じ
市 原 浩 司

私は占いを信じるほうで、テレビや雑誌で「今日の運勢」「今月の運勢」を見るたび一喜一憂します。今日はツイてないから早く帰ろうとか、今月のラッキーカラーは青だから青い服着ようとか。なので、妻はウンザリしています。とは言え、世界最古の占いの記録は紀元前3,000年頃のメソポタミア文明にさかのぼるそうで、人類はいつの世も占いを頼りに生活を送っている訳ですから、ある意味正常だと自身を正当化しています。

ところで、占いは「生年月日」、「姓名」、「生まれた時間」までも利用して行う詳細なものから、「生まれ月」、「干支」、「星座」で行う簡便なものもありますね。私がいつも見るのは後者なので、一般論として私の占い結果は、1977年11月生まれ、巳年、いて座、の方と同じことになります。ChatGPTさんによると、1977年に生まれた日本人男性は約90万8,000人と推計され、いて座に該当する人数は、出生数を均等に日割りでできると仮定した場合、約72,000人だそうです。ここから、2024年の時点で生存していると推測される人数は、簡易生命表による年齢別生存率が98.3%であることから、約70,800人と算出されました。つまり、私の日々の運勢は約7万人の仲間と共有しているのだそうです。うーん、7万人も日々同じ出来事が起こるとは思えませんね。なので、あくまでも占いは参考程度にして日常生活を送ることがよいのでしょうか。と、この原稿が出るころには、神社でおみくじを引いた私が一喜一憂している姿が容易に想像されます。

占いが当たる確率を正確に出すことは難しいとされ、これは受け止める側の解釈で結果が変わるからだと言われています。テレビや雑誌はさておき、熟練の占い師は相談者の表情やしぐさを見ながら結果を伝えるので、満足度が高くなる（当たる）傾向にあるそうです。自己暗示や心理効果により、誰にでも当てはまるような曖昧な表現を個人的なメッセージと受け止めれば（バーナム効果と呼ぶそうです）、その人にとっては当たりなのです。なんだか、医療行為も似ている気がします。熟練の先生は、一般論を述べながら処方や処置を行い、患者さんのリアクションを確かめつつ、次の手を打ちます。初手がズレても、二の手三の手がハマるとアウトカムが良くなりますね。同じ医療行為でも、医師の対応で結果がズいぶんと変わります。私はどうでしょうか？ 精進あるのみです。

三つ子の魂百まで



小樽市医師会
仲眼科

なか まさ ひこ
仲 昌 彦

現在小樽で眼科開業医をしており今年で60歳になります。日頃は歳の事などあまり気にかけていませんが、周囲から「今年は還暦だな」等言われると何か爺の領域に踏み込んでしまったかのような錯覚に陥ります。歳を意識しているわけではないのですが、過去を振り返る時「三つ子の魂百まで」という言葉がしみじみと分かります。

子供の頃の思い出で今でも鮮明に覚えている出来事があります。私の家の近くに耳鼻咽喉科クリニックがありました。そのクリニックは新しく光り輝いており、裏には豪邸が建ち玄関にはスーパーカーが停まっていた。近所のおばちゃんが「あの鼻・のどの先生の家は豪邸で、リビングは吹き抜けになっており、まるでベルサイユ宮殿のようなたたずまいで、奥様はマリー・アントワネットのように優雅で綺麗で優しいのよ」と言っていました。今思うと、そのおばちゃんが単に漫画「ベルサイユのばら」オタクに過ぎなかっただけですが、子供心には鼻・のどの先生になれば「豪邸」に住めて、「スーパーカー」に乗れて、「優雅で綺麗で優しい女性」と結婚できるんだな—という衝撃的な憧れが私の心に深く刻まれました。私は他になりたかった仕事がありましたが、最終的に医者を選んだのは、そして医学部の学生の頃から耳鼻咽喉科に興味があったのはこの衝撃的な憧れがあったからのような気がします。ただ、残念ながらこの憧れで達成しているものではありません。

自分では人生はまだこれからと強がっていますが、実際には終着点も見えてきた気がします。ただ、「三つ子の魂百まで」と言うように、子供の頃の性質・憧れは70歳、80歳、そして100歳になっても心の奥に存在し続けます。歳だからしょうがないと諦める人生ではなく、ベルサイユのばらの「オスカル」のようなボーイッシュで優しい妻がいる、プール+サウナ+温泉のある豪邸に、スーパーカーで帰る人生を夢見て、これからも頑張っていければいいな—と思っています。